

令和8年度 学校経営方針

大田区立六郷中学校

校長 高野 晃

1 学校経営の基本方針

おおた教育ビジョンの理念「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」を踏まえ、本校は「どの生徒も安心・安全で居心地のよい学校」、「上級生がお手本となる学校」、「生徒が主体的に活動できる学校」を目指す。

そのために、生徒には「やる気・本気・根気」というキーワードを伝え、全教職員が一丸となり、組織的に指導することにより、生徒が「この学級、この学年、この学校でよかった」ときらきらと輝き、また社会に羽ばたいていけるような学校経営に努める。

また、学校という集団生活の場で、生徒も教職員もコミュニケーションの重要性を理解し、仲間を大切にとらえ、仲間とともに学び、成長し合えるような学校づくりを行う。

2 学校教育目標

潤いのある学校生活の中で、人権尊重の精神を基本においた教育活動を推進することにより、豊かな心を持ち、自ら考えて行動する自主的精神に満ちた人間を育成するために、以下の目標を設定する。

- ・知的で、感性豊かな生徒を育てる
- ・健康明朗で、頑張る生徒を育てる

3 学校教育目標の具現化に向けて

【目指す学校像】

① 『確かな学力』をはぐくむことを目指し、基礎・基本の定着を図る学校

「チャイム着席」「あいさつ」「忘れ物をしない」「人の話を聴く」など、基礎・基本的な学力を身に付けさせるために必要な授業規律を指導し、定着を図る。その上で、主体的に学ぶ力を養う。

② 「達成感、充足感、自己有用感を味わわせ、心の安定を図る学校」

集団生活を送るために必要な基本的な生活習慣を身に付けられるよう、日常生活の中で繰り返し指導する。また、学校生活や地域等での様々な活動において、生徒が活躍する場面を設定する。

【目指す生徒像】

① 「やる気」にあふれる生徒

変化の激しい社会を生きていくためには、自ら考え、何事にも進んで取り組む姿勢が大切である。よって、どんなことにも挑戦できる生徒を育てる。

② 「本気」で取り組む生徒、「本気」を認める生徒

やると決めたことに真剣に取り組むことができる生徒、また、誰かの本気や仲間の頑張りを自分事として、しっかりと受け止めることができる生徒を育てる。

③ 「根気」よく取り組む生徒

何事にも粘り強く、最後まであきらめずに続けることのできる生徒、しかし、決して自分一人ではなく、仲間と協力したり、仲間の手助けを求めたりすることができる生徒を育てる。

【目指す教師像】

① 心身ともに健康で、生徒に寄り添いながら教育活動を行える教師

生徒が「安心・安全」に学校生活を送るため、教師はその職責を理解し、その使命を果たす必要がある。そのためには、教師集団が明るく元気な「チーム」であることが重要である。

②生徒の学力を伸ばし、可能性を引き出すことができる教師

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を核としたわかる授業の実現を目指し、授業改善に努めることができる教師を目指す。また、学校生活の様々な場面で生徒を認め、励ますことができる教師を目指す。

③教育公務員としての自覚を持ち、芯の強さと柔軟性を兼ね備えた教師

ライフ・ワーク・バランスを意識し、仕事の効率化を図りながら、教育の専門家として力を発揮できる教師を目指す。

4 学校教育目標を達成するための方策

- ① 各教科において、「わかる授業」・「できる授業」を展開するため、「授業改善ツール」を活用し、達成度についての数値目標の設定や教科指導の工夫・改善を行う。また、基礎・基本的な学力の定着を図るために振り返りの学習を行いつつ、主体的で対話的な学びを取り入れることにより、さらに学力の向上を目指す。
- ② 調べ学習や意見の共有などの協働学習に必要な場面において、学習用タブレット端末を効果的に活用できるよう指導計画を立てる。
- ③ 「特別の教科 道徳」の授業を核とし、日々の学校生活を通して、人間相互の関係を深め、互いに認め合うことのできる生徒の育成を行う。
- ④ 教員のサポートのもと、本校の伝統行事である「運動会」や「学習発表会（合唱コンクール・作品展）」などの学校行事や生徒会を中心とした委員会活動などの様々な場面において、生徒が主体となり運営が行えるようにする。また、ボランティア活動に積極的に参加する姿勢を養う。
- ⑤ 全教職員が「報告・連絡・相談・確認」を密に行い、組織としての力を高め、3年間を見通した指導を心掛ける。特に生徒の安心・安全に関わる「いじめ」については本校のいじめ防止基本方針を熟知した上で、いじめ防止及び早期発見・早期対応にあたる。また、日頃より環境整備に努め、危機管理に細心の注意を払う。
- ⑥ 本校のスローガンである「あ・じ・み」（挨拶・時間・身だしなみ）の徹底を図り、早寝・早起・朝ごはん等の取り組みを実施することで、生徒の基本的な生活習慣を定着させ、落ち着いた学校生活を作る。
- ⑦ 特別支援学級（6組、知的障害）・特別支援教室（サポートルーム、情緒障害）についての理解を深め、生徒の学習や生活の支援に生かす。また、特別支援学級との交流活動を積極的に行う。
- ⑧ 不登校生徒及び不登校傾向の生徒に対し、登校支援コーディネーターが中心となり、スクールカウンセラーや不登校対応巡回教員と連携し情報共有を行う。また、校内別室として「学習支援教室」の整備を行い、「居場所づくり」・「きずなづくり」に努める。
- ⑨ 学校公開週間や土曜授業など、保護者・地域の方々に積極的に学校を公開するとともに、経営支援部を核とし、各種たよりの掲示やホームページ更新などの情報発信を行い、本校の教育活動に理解を得られるよう努める。学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を開設し、「地域の学校としての在り方」や「学校における働き方改革」についての熟議を行う。
- ⑩ 令和8年度東京都安全教育推進校及び大田区教育委員会教育研究推進校（テーマ：安全教育）として、外部講師を招いての校内研修会を実施し、六郷中学校独自の安全教育プログラムの作成にあたる。